

平成 30 年度温泉地学研究所研究成果発表会プログラム

日時：平成 30 年 11 月 16 日（金） 13:00～16:00（12:00 受付開始）

会場：小田原市民会館 本館 3 階小ホール

■開会挨拶

13:00-13:05 所長 加藤照之

■口頭発表

(1) 13:05-13:25 2017 年以降の地震活動について（瀧沢倫明）

神奈川県およびその周辺地域を中心に、2017 年以降の地震活動の概要をお話しします。

(2) 13:25-13:45 箱根火山深部低周波地震と火山活動との関係（行竹洋平）

波形相関処理により深部低周波地震の検出を行い、群発地震活動、地殻変動や地表面現象など火山活動との関係を検証しました。

(3) 13:45-14:05 箱根温泉の現況 ～源泉一斉調査結果から～（菊川城司）

2015 年から 2017 年にかけて実施した一斉調査や過去の調査によるデータを踏まえて、箱根温泉の現況を簡単に紹介します。

(4) 14:05-14:25 化学成分と同位体比からみた大涌谷の地下環境（板寺一洋）

2017 年の箱根山の活発化以降、温地研では大涌谷の現地調査を継続しています。大涌谷に湧出している様々な熱水や温泉水の化学成分や同位体比から、大涌谷の地下環境について検討した結果について報告します。

休憩・ポスター発表（14:25-14:45）

(5) 14:45-15:05 鎌倉・逗子の海岸低地の地質から明らかになった過去の関東地震（萬年一剛）

神奈川県では 2011 年から 2013 年にかけて神奈川県の沿岸で、津波堆積物の探索を目的とした掘削を行ってきましたが、この調査で、海岸付近の地形発達史が明らかになり、これまで謎だった過去の関東地震の発生年代も絞り込むことが出来ました。

(6) 15:05-15:55 神奈川を襲う地震と津波（加藤照之）

神奈川を襲った大正 12 年関東地震の事例を紹介すると共に、神奈川県に大きな被害を出すおそれのある首都直下地震や南海トラフ地震に伴う津波などに関してどのような予測がなされているかについて解説します。

■閉会挨拶

15:55-16:00 研究課長 板寺一洋

■ポスター発表

会場内に当所の調査研究や箱根ジオパークなどのポスターを掲示します。休憩時間に研究員がポスターの説明をします。

地震観測でみえるもの（本多 亮）

温泉地学研究所では、神奈川県周辺の地震観測データをリアルタイムで収集し、震源決定や地震の研究を実施しています。今回は視点を変えて、それらのデータから見える「地震以外の現象」について、紹介します。

大涌谷及び上湯場新噴気地における火山ガス組成の変化（十河孝夫）

2015年の噴火以降大涌谷では新たな噴気孔が形成されるなど非常に噴気活動が活発になり、大涌谷北側の上湯場ではそれ以前の2011年頃から噴気活動が活発になっています。温泉地学研究所では、環境科学センターと共同で両噴気地帯における火山ガスの組成を調査し、その変化から火山活動について考察を行いました。

足柄平野自噴井における自噴高分布(自噴域北部調査結果)（宮下雄次）

足柄平野には、1,000本を越す自噴井から日量約5万トンを超える地下水が湧き出しています。今回、西湘地域中学校科学部の協力を得て、小田原市北部地域における自噴高の一斉調査を行ったので、その結果について報告します。

平山―松田北断層帯周辺の地質（小田原 啓）

平山―松田北断層帯の活動度を明らかにするために、断層帯周辺の地質調査を行っています。その結果から見えてくる断層の活動について報告します。

衛星データによる神奈川県およびその周辺地域の地盤変動速度の推定（道家涼介）

人工衛星「だいち」が観測したデータを利用して、神奈川県およびその周辺地域の地盤変動速度のマッピングを行っています。ポスターでは、現時点までに解析が終了している相模湾周辺の地域を対象とした結果について紹介します。